

発達障害支援者のための 標準テキスト

幼児期から成人のアセスメントと支援のポイント

辻井正次監修，高柳伸哉責任編集
西牧謙吾，笹森洋樹，
岡田 俊，日詰正文編

金剛出版，A5判324頁，3,850円，2024年4月刊

（愛知県尾張福祉相談センター）吉川 徹

本書は令和元年度から2年度にかけて行われた厚生労働科学研究である「国立機関・専門家の連携と地域研修の実態調査による発達障害児者支援の効果的な研修の開発」の成果としてまとめられている。

本書の最大の特徴は研修用の動画があわせて公開されており，これと組み合わせることで，効率のよい学習が可能となる点であろう。動画は国の諸機関が協力して運営している「発達障害ナビポータル」内に「発達障害児者の支援に関する標準的な研修プログラム」として掲載されており，無料で視聴することが可能である。計30本の動画を見ながら，要所を本書で確認していくことをお勧めしたい。なお，発達障害ナビポータルには，この研修動画以外にも豊富な情報や研修コンテンツが含まれており，ぜひ活用していただければと思う。

さて本書であるが，全体は「アセスメントツールと個別の支援計画」「適応行動」「家族支援（きょうだい支援）」「本人支援」「PDCAサイクルから支援の質を向上させていく」の5部構成となっており，発達障害者支援の全体を包括的に学ぶことができる。

内容はやや幼児期，児童期に重心が置かれている感はあるが，コンパクトに一冊にまとめられているため，初学者にとっても無理のない分量で，現場で使用されていることの多い，学術的な根拠のある支援技法を網羅的に学ぶことができ，何が現時点での「標準」であるのかが理解できる構成となっている。本書のみで即実践を行うことは難しいかもしれないが，自分が直接関わる領域以外の部分についても，必要な知識をバランス良く獲得することができるのが，本書の重要な役割であると言えるだろう。

また中堅以上の支援者は，本書を通読することで，

自分の支援の周辺で足りていない支援に気づくことができるかもしれない。足りていない支援や必要な連携について，あらためて見直すきっかけとすることができるだろう。またベテランの支援者や研究者にとっては，今後，地域資源や技法の開発が必要な領域を逆に浮き彫りにしてくれる書籍であるとも言えるだろう。また第5部はまさに研修の実施や定着，日頃の実践の評価などについて書かれており，支援技法の社会実装が強く意識された内容となっている。

このように本書は，さまざまな観点から見て「標準テキスト」に必要な条件を満たす書籍であると言える。現在，発達障害児者支援には大きな地域間，支援機関間の格差が見られている。支援水準の均^{てん}質化は喫緊の課題となっており，本書と研修コンテンツの活用はその推進に大きく寄与できる可能性があるように思われる。本書の前書きにもあるように，発達障害領域の研究は日進月歩であり，現場での実践も大きく変化している。今後も本書や研修コンテンツが継続してアップデートされていくことを期待したい。